

MTSDR - W32 概要説明

MTSDR - W32について

MTSDR - W32は、大型コンピューターなどの他システムとのデータ交換を実現するために、磁気テープサブシステムとパーソナルコンピュータ間でのファイル転送を可能にしたソフトウェアです。

操作方法について

MTSDR - W32アイコンをクリックしてMTSDR - W32を起動するとメインウィンドウが表れます。

目的のコマンドボタンを押して各コマンドを実行します。

基本操作は、

- 1) SETコマンドでファイル転送に関するファイル形式やコード変換の設定します。
- 2) DSK2MTコマンド又は、MT2DSKコマンドでテープファイルとディスクファイル間のファイル転送を行います。

という流れになります。



コマンドボタンを押すと処理に必要なパラメータを入力するダイアログボックスが表れます。

パラメータ入力後、実行ボタンで処理を開始します。

表示制御ボタンは、MT2DSKコマンドの画面表示とDIAGコマンドの処理を制御できます。

中止：実行中の処理を終了します。

停止：実行中の処理を一時停止します。

再開：一時停止している処理を再開します。

情報表示領域は、実行中の処理に関する情報が表示されます。

コマンドの実行方式として以下の2種類があります。

対話方式：キーボードやマウス操作によってパラメータを指定して実行する。

バッチ方式：パラメータを規定に従って記述したファイルから受け取って自動的に実行する。

コマンドの説明

バッチ

- 各コマンドのパラメータを規定の書式で記述したファイルを選択してキー操作なしでコマンドを実行できます。

パラメータを記述したファイルを起動時のコマンドラインで指定することにより起動から終了までを自動化することも可能です。

DSK2MT

- 指定したディスクファイルをテープファイルに書き込みます。
レコード毎の改行コードを削除できます。
- マルチボリュームになった場合は、テープを交換して続行できます。
JX9500オートローダーでは、自動的に交換することが可能です。

MT2DSK

- テープファイルを指定したディスクファイルに読み込み又は、画面表示します。
レコード毎に改行コードを付加できます。
- マルチボリュームになった場合は、テープを交換して続行できます。(画面表示時は不可)
JX9500オートローダーでは、自動的に交換することが可能です。
- ラベル付きファイル(SL)の場合は、ファイル識別名を入力してファイルを検索できます。
- CSV形式でディスクファイルに出力できます。
- 画面表示の方法として、文字表示・ラベルのみ表示・16進表示があります。

SET

- ファイル転送に関する各種パラメータを設定します。
ブロック長 : テープファイルのブロック長を指定します。
ラベル : ラベルの形式・ANKコード変換・内容等を指定します。
レコード長 : レコード長を指定することにより、改行コードの削除や追加が可能になります。
コード変換 : ANKコード・漢字コードの種類を指定します。
フィールド変換 : レコードレイアウトに関する情報を指定することにより
ANKコード・漢字コードに加え、パック・ゾーン・ビット等の
コード変換が可能になります。

その他...

- SETコマンドのパラメータ設定画面

SET

ブロック(D)
ブロック長 4096
パリティ なし

ブロック長情報(M)
 ブロック長情報
 ブロック長チェック

CMT
データ圧縮(D) 無効 あり なし
 オートローダー MV自動交換

ラベル
形式 なし
ANKコード なし ラベル設定(D)

表示情報ファイル出力
 ファイル出力 追加書込
MTDR_W32.LOG
ファイル 記録消去

EOFコード
 追加/削除

レコード
DSK2MT 0
MT2DSK 0

データ
ANKコード なし
漢字コード なし 漢字コード設定

レコード形式 固定長 可変長(M)
 フィルト フィルト設定

オプション
EOV識別(M) テープマーク*1 EOFラベル
 表示中止時の動作 Omitファイル
 BOT後のテープマーク 日時表示
 MV時のハッチ継続 ラベル自動設定

MTユニット

OK キャンセル 情報ファイル HELP

・情報ファイルについて

SETコマンドの設定値は、情報ファイルとして任意のファイル名を付けて保存できます。(拡張子"INF")

テープファイルや業務別に作成することにより、目的に合わせて既存の情報ファイルを読み込み、処理することができます。

LOAD

- ・テープをロード(使用可能状態)します。(既にロードされている場合は、巻き戻します)
- ・JX9500オートローダタイプでは、ロードするテープをスロット番号で指定できます。

UNLOAD

- ・テープをアンロード(テープ取り出し能状態)します。
- ・JX9500オートローダタイプでは、自動的に元のスロットにテープを格納します。

DIAG

- ・テープ装置の自己診断テストを行います。

リード/ライトテスト：ボリュームの先頭から基準化されたデータ列を16ブロック単位で書き込み/読み込み/比較することにより、書き込み/読み込みの処理が正常であるかをチェックします。

リードテスト : ボリュームの先頭からデータを1ブロック単位に読み込みブロックの番号と長さ、テープマーク等の情報を表示します。

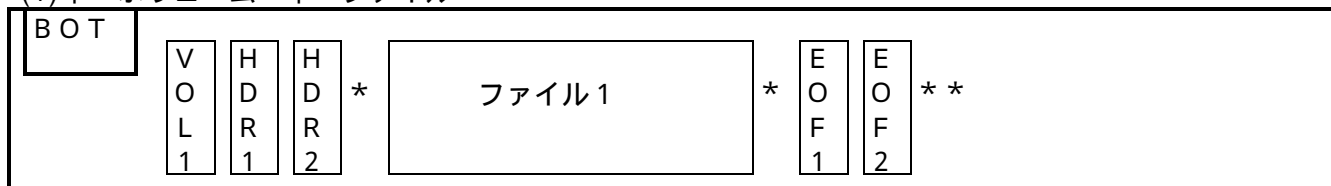
テープファイル形式

- ・ラベルなしファイルの形式 (NL)
 - (1)単一ボリューム 単一ファイル
 - (2)複数ボリューム 単一ファイル
 - (3)複数ファイル 単一ボリューム
 - (4)複数ファイル 複数ボリューム

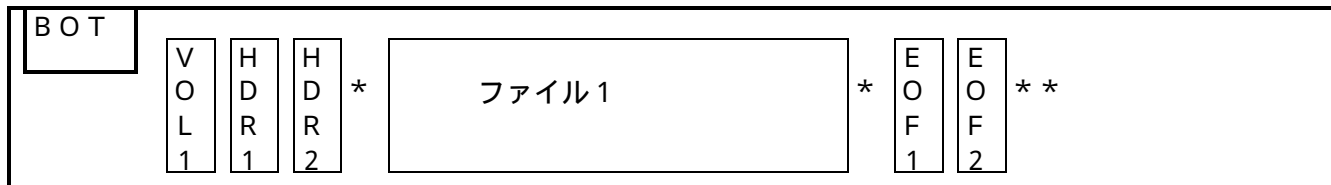
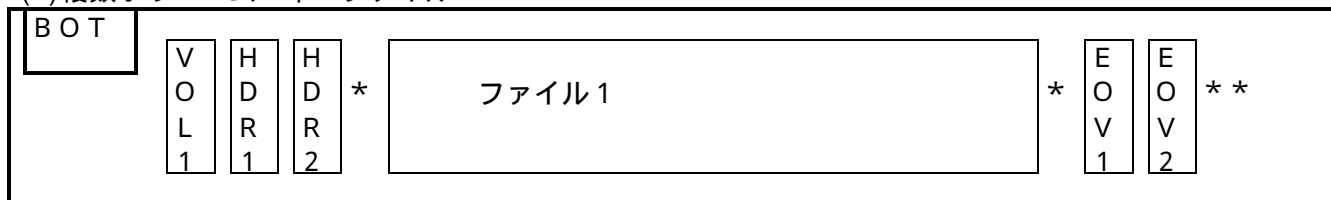
- ・ラベル付きファイルの形式 (SL)

ラベル付きファイルには、形式1と形式2があり、SETコマンドで選択できます。
 形式2は、形式1からHDR2ラベルとEOF2ラベルを除いた形式です。
 以下に形式1を示します。

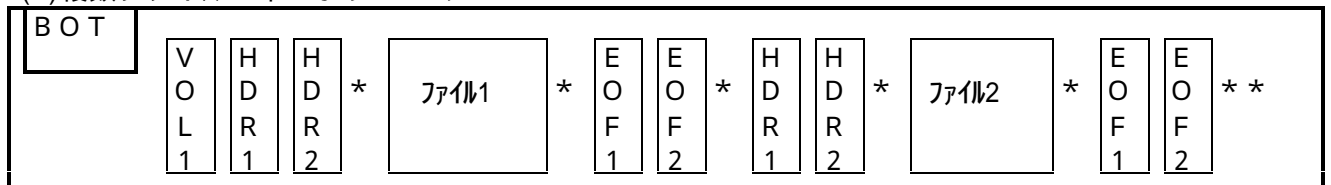
- (1)単一ボリューム 単一ファイル



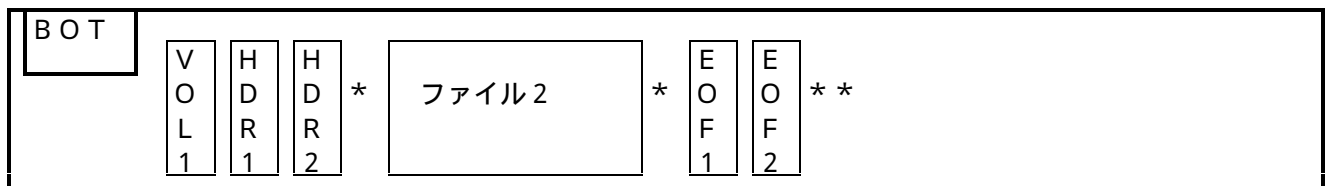
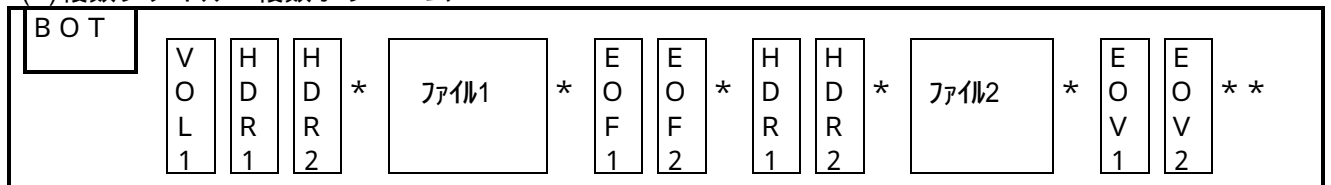
- (2)複数ボリューム 単一ファイル



- (3)複数ファイル 単一ボリューム



- (4)複数ファイル 複数ボリューム



ラベルの構造

区分： 印 ... キーボードから入力。

印 ... 自動的にMTに書き込まれる。

×印 ... 自動的にスペースが書き込まれる。

項目名後の()は、変更不可能な既定値(印・×印)又は、変更可能な既定値(印)です。

・VOL1ラベル

項目名	サイズ	区 分
ラベル識別名(VOL)	3	
ラベル番号(1)	1	
ボリューム識別名	6	
アクセス条件	1	
将来の標準化のために確保(ブランク)	2 6	×
所有者識別名	1 4	
将来の標準化のために確保(ブランク)	2 8	×
ラベル規格番号	1	

・HDR1 / EOF1 / EO V1 ラベル

項目名	サイズ	区 分	
		HDR1	EOF1
ラベル識別名(HDR / EOF / EO V)	3		
ラベル番号(1)	1		
ファイル識別名	1 7		
ファイルセット識別名	6		
ファイル分割番号	4		
ファイル順序番号	4		
世代番号	4		
世代更新番号	2		
作成日付	6		
満了日付	6		
アクセス条件	1		
ブロック数(HDR1は、'000000')	6		
システム識別名	1 3		
将来の標準化のために確保(ブランク)	7	×	×

・HDR2 / EOF2 / EO V2 ラベル

項目名	サイズ	区 分	
		HDR2	EOF2
ラベル識別名(HDR / EOF / EO V)	3		
ラベル番号(2)	1		
レコード形式(F, V, U, D)	1		
ブロック長	5		
レコード長	5		
オペレーティングシステム用に確保	3 5		
バッファオフセット長	2		
将来の標準化のために確保(ブランク)	2 8	×	×

ブロック/レコード

- ・ブロック：8バイト～48Kバイト
 - 固定長ブロック形式
 - 可変長ブロック形式

固定長ブロック形式の場合は、レコード長の整数倍であること。

可変長ブロック形式は、テープからのファイル読み込み(MT2DSK)のみサポートします。

テープへのファイル書き込み時(DSK2MT)、最終ブロックに記録すべきデータバイト数がブロック長に満たない場合の処理として下記の方法があります。

記録すべきデータバイト数をブロック長とする。

指定されたコードを埋め込みしてブロック長に合わせる。

- ・レコード：最大48Kバイト
 - 固定長レコード形式
 - 可変長レコード形式

可変長レコード形式は、テープからのファイル読み込み(MT2DSK)のみサポートします。

テープへのファイル書き込み時(DSK2MT)、ディスクファイルデータが可変長レコードの場合は、スペースコードを埋め込みしてレコード長に合わせます。

- ・レコード形式の規則

固定長レコード形式：1ファイルのレコードは、同一レイアウトであること。

可変長レコード形式：各ブロックの先頭4バイトには、そのブロックの長さを示す情報が記録されていること。

各レコードの先頭4バイトには、そのレコードの長さを示す情報が記録されていること。

上記4バイトの情報は、先頭2バイトに16進数で長さが記録されていること。

コード変換機能

- ・基本機能

<MTファイル>	<ディスクファイル>
漢字コード	シフトJISコード
EBCDICコード	JIS8コード
パックコード	JIS8コード
ゾーンコード	JIS8コード
ビットコード	JIS8コード

- ・フィールド変換機能

固定長レコードの場合、レコードレイアウトに沿ってフィールド指定を行うことによりいろいろなコード変換が可能になります。

特定箇所の無変換・文字置き換え（1バイトコード）・削除等の指定も可能です。

- ・漢字コード変換機能

DSK2MT：ANKコードと漢字コードを自動的に判断して変換します。

漢字イン・アウトコードを付加する場合は、漢字イン・アウトコードを指定します。

MT2DSK：漢字イン・アウトコードが付いている場合は、漢字イン・アウトコードの指定を付いていない場合はフィールド変換を指定することによって変換します。

漢字イン・アウトコードは、削除又は、スペースコードに置き換えることが可能です。

- ・外字コード変換機能

JEFコードとKEISコードの外字コード変換が可能です。

外字コードは、外字コード登録ユーティリティで事前に登録する必要があります。

- ・パックコード・ゾーンコード・ビットコードの変換機能

フィールド変換を指定することによって変換します。

（ビットコード変換は、MT2DSKコマンドのみ可能です）

- ・CSVファイル出力

フィールド変換を指定している場合、MT2DSKコマンドでCSV形式のディスクファイルを作成できます。

フィールド指定での項目毎にカンマ又は、任意のコードを挿入するとともに項目最後尾からスペースコード以外を検出するまでのスペースコードを削除します。

- ・不正文字置き換え機能

MT2DSKコマンドで漢字コードを変換した結果、漢字コードとして不正なコードと判断されたコードを一定文字に置き換える機能です。

- ・コード変換の制限

可変長レコードの場合は、EBCDICコード変換と漢字イン・アウトコード付きコード変換のみ可能です。

MT2DSKコマンドで画面に16進表示する場合、EBCDICコード変換だけが有効になります。

・漢字コード一覧

漢字コード	コード体系	漢字イン・漢字アウトコード
J I S 漢字コード 83年版	J I S	イン : 1 B 2 4 4 2 h アウト : 1 B 2 8 4 A h
J I S 漢字コード 78年版	J I S	イン : 1 B 2 4 4 0 h アウト : 1 B 2 8 4 8 h
J E F (1 2 P)	J I S + 8 0 8 0 h	イン : 2 8 h アウト : 2 9 h
J E F (9 P)	J I S + 8 0 8 0 h	イン : 3 8 h アウト : 2 9 h
K E I S	J I S + 8 0 8 0 h	イン : 0 A 4 2 h アウト : 0 A 4 1 h
ユニバック	J I S + 8 0 8 0 h	イン : 0 A F 0 h アウト : 0 A F 1 h
J S	J I S + 8 0 8 0 h	イン : 0 A F 0 h アウト : 0 A F 1 h
F 9 4 5 0	J I S + 8 0 8 0 h	イン : 1 B 6 D h アウト : 1 B 6 E h
J I P S (E)	J I S + E B C D I C	イン : 3 F 7 5 h アウト : 3 F 7 6 h
I B M 漢字コード	I B M	イン : 0 E h アウト : 0 F h
N 5 2 0 0 内部	N 5 2 0 0	なし

J I S + 8 0 8 0 h : J I Sコードの上位・下位バイトにそれぞれ
8 0 hを加えたコード。

J I S + E B C D I C : J I SコードをE B C D I C (A C O S) 変換したコード。

